

# 原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る国際フォーラム 2022 について

## (企画案)

2022.8.30 JAEA/ISCN

### 1. 概要

原子力機構は、原子力平和利用の推進に不可欠な核不拡散・核セキュリティに関する理解の増進を目的として、毎年、国際フォーラムを開催している。本フォーラムでは、各国の政府関係者や核不拡散・核セキュリティの専門家による、時々の今日的な課題に焦点を当てた講演やパネルディスカッションを通じて、原子力平和利用と核不拡散・核セキュリティに係る種々の課題や方策について国内外の理解を深めるとともに、我が国及び原子力機構の核不拡散・核セキュリティへの取組を発信している。

今年度の国際フォーラムは、「ロシアのウクライナ侵攻が核不拡散・核セキュリティ・原子力平和利用に与える影響と課題」をテーマに、「ロシアのウクライナ侵攻により、核不拡散・核セキュリティに何が起きているか、IAEAをはじめ国際社会はどのように対応しているのか」について理解を深める。さらに、「原子力平和利用への影響と課題、安全・安心な社会の構築に向け何をすべきか」について議論する。

具体的には、以下の論点を想定し、基調講演、パネル討論を企画する。

- ① ロシアのウクライナ侵攻の核不拡散・核セキュリティへの影響
  - ・ ウクライナの原子力施設において銃撃戦があり、原子力安全、核セキュリティの脅威、保障措置活動への支障が生じた言われているが、実際になにが起きているのか
  - ・ 核兵器を放棄したウクライナに対し、ブタペスト覚書等で約束していた安全保障をウクライナに対して提供せずにロシアは武力侵攻した。今後の核不拡散、非核化等への影響は
- ② IAEA 等、国際社会の対応
  - ・ IAEA は、原子力安全、核セキュリティ、保障措置に関して、どのように対応したか。
  - ・ NPT レビュー会合等において、何が議論されているか
- ③ 原子力平和利用への影響と課題、我々は何をすべきか
  - ・ 原子力平和利用への影響は
  - ・ 安心、安全な社会の構築に向けての課題は
  - ・ 我々（日本、JAEA）は何をすべきか

### 2. 今年度のフォーラムの概要

#### (1) 開催形態

2020、2021 年度の実績を踏まえ、ウェブオンラインでの開催とする。日英同時通訳あり。

#### (2) フォーラムのテーマ

「ロシアのウクライナ侵攻が核不拡散・核セキュリティ・原子力平和利用に与える影響と課題」

(3) 開催日時

2022年12月14日(水) 16:00~18:30(日本時間)

欧州 8:00~10:30(-8時間)、米国東時間 2:00~4:30(-14時間)

(4) 学生セッション

国際フォーラムの前に開催予定。

(5) 国際フォーラム 主なプログラム

開会挨拶(16:00~16:05)

小口正範 JAEA 理事長 (5分)

基調講演(16:05~16:35)

(ア) ウクライナ情勢及び核不拡散等に与える影響について詳しい国内専門家(15分)

主として論点①について講演

(イ) NPT レビュー会合、IAEA の対応等に詳しい専門家(15分)

主として論点②について講演

基調講演は、(ア)、(イ)の両方、または、何れかとし、何れか一方の場合には、講演時間を20~30分に延長。

パネル討論(16:35~18:25)

(タイトル案) : 「ロシアのウクライナ侵攻の原子力平和利用への影響と課題、安全・安心な社会の構築に向け我々は何をすべきか」

(パネリスト候補)

- ・ [モデレーター] ウクライナ及び原子力の専門家
- ・ 国内専門家 : 国内大学・政府機関等の専門家
- ・ 国外専門家 : IAEA、SIPRI、VCDNP、Odessa Center for Nonproliferation (OdCNP)
- ・ 学生代表
- ・ JAEA

パネリストは、モデレーターを含め合計で6~7名

(論点)

論点①、②に触れつつ、論点③を中心に議論を行う。

閉会挨拶(18:25~18:30)

大島宏之 JAEA 理事

以上